

磐城時報

編輯 磐城新聞社
印刷 磐城新聞社
電話 磐城新聞社
電話 磐城新聞社
電話 磐城新聞社

第三小學校で 濱三郡町村長會

知事代理金森内務部長が 地方長官會議の趣旨傳達

濱三郡町村長會は二日午前九時
から平町第三小學校に開き町村
長八十余名、助役その他を合し
百余名出席、縣からは知事代理
金森内務部長、水谷社會課長、
小森地方課長、中會根社會教育
主事、船越道路主事、吉田統計
課長、富澤外六名臨席、金森
内務部長が知事代理として全國
地方長官會議の趣旨を傳達した
後左の各項を指示し正午散會し
た。

▲指示事項
一、神社の經理の件
一、小町村合併の件
一、市町村財政の經理並に市町
村債の許す方針の件

一、納税成績の改善上の件
一、地方税に關する改正法令の
施行の件
一、縣會議員選舉の件
一、町村道路線認定の件
一、灌漑整理の件
一、道路愛護の件
一、農事獎勵の件
一、産業組合の普及發達の件
一、蠶桑業組合合法施行の件
一、青年教育更張の件
一、家庭教育振興の件
一、學校教員俸給支拂の件
一、救護法施行の件
一、軍事救護の件
一、海外移植の獎勵の件
一、統計正確度増進の件
一、注意事項
一、農山漁村低利資金融通の件

曾我氏の助役推薦運動 結局は立消えか

町議一部に反對の聲起り 到底纏まらぬ模様

平町會議員の一部並に平町有志知已である藤田榮助氏等である
等は後任平町助役として第一小と音はれ、町會議員懷柔の策と
學校長曾我直治氏をかついで先づ反對の態度に出るだら
る事昨報の如くであるが、抑ももうと想像した人々を説いた後青
曾我氏を持ち出すに至つた者は、野崎兩氏等に渡りをつけて
巷間傳ふる處によると曾我氏と相當の根強さを持つに至つたの
同郷の關係にある吉田五平氏であつたが、かうした裏面の策

炭車が轉覆し 三名重傷を負ふ

磐城炭礦高坂坑で 捲上機が逆に廻轉

石城郡内鄉村磐城炭礦高坂坑に
於て一日午後五時半頃炭車を坑
内に捲き下す際機械が逆に廻轉
したので急に停止せしめんとし
たためその反動でロープが外れ
炭車が轉覆し乗つてゐた後山夫
山本春雄(二)運搬夫菊地唯造
(二四)同長島光男(二〇)の三名
は腰部、頭部に打撲を負ひ手當
中である。

柏木氏の慶事

磐城新聞社編輯長柏木哲氏令夫
人は一日午後四時男児を出産母
子共健全である。

木炭視察員 經過報告會

濱三郡木炭同業組合では過般組
員有志を山陰、東北各地の製
炭業視察のため派遣中であつた
續である。一日の取引状況左の

昨年より減少した 石城郡の酒造税

石城郡下の六年度第一期酒造税
は三十日納期満了となつた總税
額は十一萬三千八百七十七圓で昨
年の同期に比すれば實に七萬余
圓を減じてゐるも郡下各酒造家
の窮乏は他府縣にない痛烈を示
して五年度後期分も日本興業銀
行から三萬五千元を借受けた
が、今期は五萬圓以上も借なけ
ればどうにもならない平稅務
署の觀測である。尚ほ三十日限
りの興銀から借りた最後の拂込
み一萬一千一百一圓はすでに日
限までに拂込み済みになつてゐ
る。

村長排斥

石城郡上遠野村大字大平部落民
二百餘名は三十日午後二時頃同
村上遠野劇場において村民大會
を開き赤坂村長排斥、村會不
信任を決議同四時半散會、委員
成行きは非常に注目されてゐる

復縁を拒絶され 夫の庭で首を吊る

石城郡大浦村大字上仁井田字先
材三番地居住安達郡高平村生
れ渡邊伊造(五二)は去る五月末
九日間同棲してゐた内縁の妻渡
倉ノブ(三八)と夫婦別れをなし
ノブはそれ以來別居してゐたが
夫が戀しくなり一日夕刻伊造を
訪れた處伊造は別れた妻に用が
ないと素氣ない挨拶なのでノブ
は悲觀し同夜十時頃伊造方庭先
きの物乾竿に細紐を吊し縊死を
企て苦悶中を伊造が発見應急手
當を施したため一命を取止めた

麻雀競技大會

前平麻雀俱樂部では十一日土曜
日午後五時から麻雀大會を開く

川柳反古籠

宿題「登山」互選
一点句
アルプスへ行くをお袋危なが
り
警報に立つ日がのびる登山隊
頂上は下から雨か降る話
雲一つ十三州を皆かくし
温泉で元氣をつける登山隊
二人富士をきわめた様にい
ひ
満員に着座座が邪魔な富七電
車

豫期以上の好成績で 石城蘭市場閉鎖

石城郡に於ける春蘭取引の四倉
植田、勿來の各蘭市場は今日二
日閉鎖する事となつた。以上
各市場は何れも六月十三日前後
から開始したもので昨一日まで
の取引額は四倉市場二萬七千七
百六十四圓三百十文、植田市場
一萬二千六百六圓で前年より好成
績である。一日の取引状況左の

四倉市場
白蘭百九十六貫八百六十文
最高三圓四錢、最低二圓八
六錢、平均三圓十八錢、黃蘭
四十貫最高三圓二十六錢、最
低二圓二十六錢、平均三圓八
錢、植田市場
白蘭五百七十二貫最高三圓三
十錢、最低二圓九十錢、平均

幼児を轢く

平町三町目尼子自動車部運轉手
江名町中ノ作生れ吉田忠哉(二
四)は一日午後四時頃平湯本間
乗合自動車を運轉し平町から湯
本町に向ふ途中内鄉村境内に
於て同字渡邊味長女シゲ(五
三)を轢き倒し全治四週を要
する重傷を負はせた。

第一第二野球戦

平第一校對平第三校野球試合は
二日午後三時半より平第三小學
校庭で舉行する。

傷害の告訴

石城郡
小名濱町定西野崎貞行は去月二
十八日午後七時頃船引場で同町
坂本一と口論の末大立廻りを演
じ一を散々毆打してゐるころへ
貞行の知人で同町の馬上保壽が
通りかゝり更に一を毆打全治二
週間の傷を負はせたため平署
に告發された。

をあげて同夜赤坂村長に決議文
を手交した。部落民がかくも激
昂するに至つた理由は一昨年植
田町から三坂村に通ずる道路の
縣移管に際し村當局の無能から
大平部落を經由すべきであるに
かゝらず字根岸を通じた爲め
その後大平部落は著しく衰微し
たことならびに字澤繁地内縣道
の急激迂回線を折角總工費二萬
餘圓で新設しながら完成一ヶ年
を經過する今日まで縣に移管の
手續きをこつてゐないことなど
に關係した問題であるといふが
信任を決議同四時半散會、委員
成行きは非常に注目されてゐる

二日
 竹樂劇部第一福井茂氏指揮三十余名
 舞臺：淺草松竹座其のまの諸設備にて公演致します
 (1)月光千金 (4)タンパリン (6)ロシヤ民話
 (2)シヤスパン (5)女給 (7)ホクシヤ民話
 (8)早慶 (9)鏡
 入場券 全席 十圓
 特別席 十五圓
 料席 二十圓
 日活 料席 十圓
 平 料席 六圓
 松竹 料席 四圓
 電話 四六六
 下利御券引劇

松竹劇部

スンセンナ獨自竹松

運幸たつ觸に足

演 熱 雄 達 藤 齋……優 珍

曲部三ンボツニ篇名大作特々超活日大

待三米

子 蓉 村 梅……郎次傳内河大
 卷 十 篇 前……卷 十 二……篇 二 全

モダク屋妻吾目丁五松館平日料場入
 藤齋路小紐橋店品洋竹館平日活に特席通普
 いさ下利御券引劇

外科 花柳病科 専門

平町六丁目橋際

木村外科醫院

電話三〇九番

外科 一般外科 内臓外科

入院 随意 (自炊の便あり)

安齊外科醫院

元 赤心堂病院跡
 電話 四七五

ペトリン

(うじころし)

東京衛生試験所證明、殺菌殺蛆衛生消毒劑
 ◎ 便所、塵芥箱、下水、汚物捨場、等不潔の場所に
 撒布して完全な消毒劑なり

平町四丁目
 特約販賣店 小野屋藥店
 電話百四十四番

服 服

輕快な夏服の季節となりました。スマートな新製品が豊富に取揃へて御座ります。

- ◆輕裝上衣
- 黒セル ¥3.50
- カシミア ¥7.80
- シルク ¥8.50
- ◆白直衣 ¥1.40
- ◆ツボン
- 白セル ¥2.30
- パンピス ¥2.50

平 赤かや洋服店 電話203

外科 専門 X光線科

病室完備 平町南町

上田外科醫院

電話一二九番

貸家廣告

平町新川町三十番地
 一階 建 (商店向き) 家賃十五圓五十錢
 同 十八番地 (十五圓)
 同 三十番地 (勤人向き) 家賃五圓五十錢
 同 十七番地 (六圓五十錢)
 同 三十一番地 (勤人向き) 五圓
 同 八番地 (五圓)

平町新川町
 中野勇吉 電話一三三番

佛國マルソー會社元詰 生葡萄酒

マルソー・アランク・白 子 1.10
 マルソー・ルージュ・赤

良品にして安價賣行飛ぶが如し

西村屋藥局

三陽製藥株式會社
 久之濱新妻治郎
 平町販賣店 山野邊藥局

毒核 腸胃 専門

皮膚病 淋病 婦人病 腸胃病 胃性病 腸性病

松村醫院

平町南町 (七〇一話)

氷水 開業廣告

弊店等蒲鉾製造販賣期間中は多大の御引立に預り厚く御禮申し上げます。今回例年の通り氷水及アイスクリューム其他氷加工清涼飲料物の製造販賣を開始致しましたから多少に拘はらず御用命御引立の程願ひ上げます。

砂糖。大暴落のため 味は百パーセント

- △アイスクリューム 十 錢
- △アツキアイヌ 五 錢
- △水 豆 八 錢
- △ミルクセーキ 二十 錢

その他一切……出前迅速

平警察署通り
 藤 市 電話三〇五番
 平町字一丁目
 藤 寅 電話一四一四番
 平警察署通り
 藤 寅 電話一六六番

魚清食堂部

柳川なべ 三十錢

電話六三三番